県建設業協会肝属支部総会

知恵出し更なる融和を

県建設業協会肝属支部（原口優支部長）は1日、支部会員77人（委任状含む）が出席して鹿屋市のホテルさつき苑で第39回通常総会を開き、昨年7月に実施した国交省出前講座などの事業報告と高校生を対象とした現場見学会等の新年度事業計画、収支予算を採決した。

総会では冒頭、原口支部長が「14年度の日本経済は、経済を再生させるための政策強化を図ったが、当地区の会員受注額は前年対比12・8％の減、金額にして22億円の大幅減で受注競争の激しい1年であった。このような状況下で安全管理雇用改善パトロール診断活動等の実施で、幸い昨年度に続き3大災害等の死亡事故はなかった。これら厳しい時代を会員企業がお互い知恵を出し合い更なる融和を図るためにより一層の理解と協力をお願いします」と挨拶。

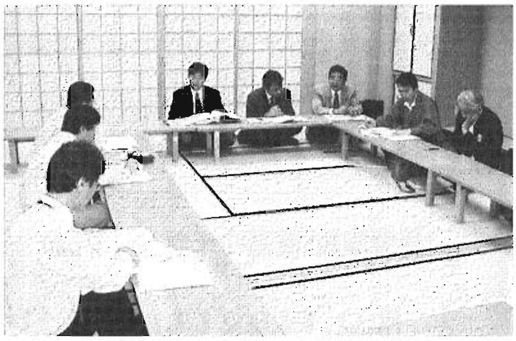
続いて、議長に米倉正之氏（㈱米倉建設）を選出、議事に入り、14年度事業報告、決算及び剰余金処分案、電子入札対応などの事業や要望活動、調査・研修・講習等の15年度事業計画及び収支予算案、会費徴収と入会金徴収など各議案を承認した。

新年度事業計画を決めた総会 ＝鹿屋市のホテルさつき苑で

NPOインフラネット総会

旧道敷等再利用 活動計画決める

NPO法人インフラネット（新屋敷和明代表理事）は4月25日、鹿児島市の市勤労者交流センターで第1回総会を開き、道路旧道敷再利用の提案活動や法面危険個所の赤外線診断、歩道ネットワークづくり活動の実施などの15年度活動計画を決めた。総会後は、5人の新会員紹介や今年3月30日に実施した第1回歩道ネットワークづくりの反省会もあった。同法人は、平成14年12月に技術者や地域活動を実践している市民ら15人で設立（法人登記済み）。市民と行政を結ぶパイプの役割を担いながら、市民の目線に立った小さなインフラ整備のための活動を目指す。


新年度活動計画について意見交換する会員 ＝鹿児島市の市勤労者交流センターで

新屋敷代表理事は挨拶の中で「設立から半年が経過しましたが、NPOとは何であるかご理解頂けたでしょうか。第1回歩道ウオークでは予想を上回る市民の参加がありました。市民の視点は鋭く、私共も気づかなかった貴重な指摘を頂きました。一般市民が求めるものを引き出し、行政に提案していくための活動を今年は本格的に始めたいと思います」と抱負を述べた。

総会では、利用者のマナー不足から空き缶やゴミの不法投棄場所になってしまい、現在バリケードで遮断されている旧道敷の開放を提案するため5月25日に現地を視察、その可能性を検討する等の活動を決めた。また好評だった歩道ウオークは、今年は鹿児島市内2カ所、姶良地区1カ所で実施する。活動後はワーキンググループによる検討会を開き、行政機関などに成果を報告することにしている。

起業家を広く募集

かごしま起業家応援プログラム

㈶かごしま産業支援センターはこのほど、「かごしま起業家応援プログラム」の募集要項を発表、上野原ビジネスプラザ（国分市）を拠点に、起業家を目指す者を全国から広く募集する。

実施要領は次の通り。

▽応募対象者＝創造性、新規性のある技術やアイデアを基に、創業を目指す個人あるいは5人以内の任意のグループ及び新たな事業分野で会社設立を目指す中小企業者

▽対象事業＝①鹿児島の多様な資源や素材を活用した新しい商品開発②医療・福祉・環境に関連した新製品・サービス等③ITを活用した新しい技術・サービス等

▽対象経費＝①商品・サービス開発推進費（情報収集、調査研究開発費等）②販路開拓・販売管理費（宣伝広告費等）③一般管理経費（人件費、事務費等）

▽助成金＝1件あたり1000万円以内

▽募集期間＝5月1日～7月31日（事業計画書の提出期間）

▽応募方法＝申込書と事業計画書を提出（※事業計画書作成について、6月22日、29日の2日間、上野原ビジネスプラザ（国分市川内1137－72 ☎0995・45・3511）で「ビジネスプラン策定セミナー」を開催する）

応募受け付け及び詳しい事業案内の問い合わせ先は、㈶かごしま産業支援センター新産業育成課（鹿児島市名山町9－1、県産業会館2階 ☎099・219・1272）。

購読料のお支払いはお手軽で便利な
自動振替で
鹿児島建設新聞
099-227-5100へ

かお…人

県土木部監理用地課長に就任した

重田 和男 さん

「私共の課は、土木部の組織や予算、議会対策などを担当する総括的なセクションであり、部内職員の声に耳を傾け、現場の方々が仕事に集中できるようにサポートしたい。また、建設業の経営基盤の安定のために、受注機会の増や事業資金の円滑化など、各種の支援に努めたい」と抱負を語る。

「企業の皆様も経営基盤の安定に努めるとともに、技術の研さんなどで施工能力を高めることが重要であり、真の実力を付けてほしい」とも。

昭和49年鹿児島大学を卒業し入庁、平成12年保健福祉部障害福祉課長、同14年同部高齢者対策課長を経て現在に至る。これまで、「商工政策課時代に、かごしま遊楽館のプロジェクトを担当し、県庁舎跡地対策事務局でかごしま県民交流センターの基本、実施設計に携わったことが感慨深い」と回顧する。

経営基盤安定へ各種支援

40歳前、上司の勧めではじめたゴルフが趣味。プレー中の開放感とプレー後の清々しさがなんともいえない。今でも月1回は楽しむ。また、読書も好きで政治経済などの現代ジャーナルや、古代中国の歴史ものを好む。

姶良郡姶良町東餅田に夫人と2人暮らし。娘2人は県外に住み、寂しさがある一面、アツ子夫人ともども充実した生活を満喫している。54歳。（上久保芳孝・報道部）

6日まで鹿児島市で

サウルス建築設計事務所

「プレタポルテのいえ」作品展

サウルス建築設計事務所（主宰・宇都博徳氏、米永優子氏 本社・鹿児島市）は4月26日から5月6日まで鹿児島市西千石町の住ま[illegible]ーぶる」でアトリエ・サウルスの住宅／建築[illegible]のいえ」を開催している。

6日まで開催中の建築作品展 ＝住まいづくりの図書館「びーぶる」で

[illegible]ール空間を軸に家族とは何かを問いかけたFam（鉄骨造104・11㎡）や木造平屋の15坪・25坪の2タイプのベーシック・ハウス、鉄骨・木造との複合構造で平面構成を独創的に再構築、4空間を並列に配置したBooths、アパート経営者のための木造デザインアパートメントfcubeなどを作品展示している。

「これまで家づくりは住宅メーカーや工務店がするようなイメージが一般的であったような気がします。市民の側にも設計事務所はどういう仕事をするの[illegible]せん。今回提案した「プレタポルテのいえ」は、設計者というよりビルダーの立場になって住宅とは何かを問いかけ、限られた建築面積や建築予算の中で設計者がつくる家にはどんな斬新な発想や工夫があるかを提案してみました」と宇都氏。作品展示会には珍しく「800万円からのデザイン住宅の提案」の副題の通り、作品ごとに工事費の参考価格や設計料が提示されている。関心の向きは同事務所（☎099・250・9100）まで。会場は高見馬場電停前のローソンのあるビル[illegible]